

**令和3年度文京区アカデミー推進協議会
第5回分科会(学習活動、文化芸術) 概要記録**

日 時	令和3年9月1日(水) 18:00～20:00
会 場	オンライン開催(Zoom)
出席委員	座長 田中 雅文 増田 純、三浦 武裕、高澤 芳郎、牧野 恒良、増田 みゆき、 田口 稔己、柳下 幸一、今井 瑛里子、高橋 由貴子、山内 豊
欠席委員	
事務局	細矢剛史アカデミー推進部アカデミー推進課長 齊藤嘉之真砂中央図書館館長 諸久子アカデミー推進課アカデミー推進係長 鈴木直人アカデミー推進課文化事業係長 浅野美紀アカデミー推進課文化資源担当室長(ふるさと歴史館長)
資料	資料1 文化芸術分野の施策体系等 参考資料1 令和3年度 事業調査結果A 文化芸術分野 参考資料2 令和3年度 事業調査結果B 文化芸術分野
(議事) 1 議題 ◎委員意見 ◆事務局説明	1. 文化芸術分野の施策体系等について 資料1に基づき、文化芸術分野の施策体系等について説明。 <u>(1)文化芸術の定義について</u> ◎これは定義にあたるのか。 ◆本計画をつくる際の区としての定義となる。一般的な定義に近いと思っているが、オリジナルな面もあると思う。 ◎「みる」については、オンライン視聴が最近増えていると感じるので、そうしたところを重点的に広めていくことが重要だと思う。 ◎この時期に対面でイベント等は難しく、自治体の立場からもやりづらと思うので、オンラインを重点としつつも、区として対面で何ができるかを議論していただければと思う。 ◎音楽の場合は「聴く」ということになると思うが、「聴く」も「みる」の中に入れて考えると良いか。 ◆ここは「みる」の中に入れている。 ◎「文化芸術とは」というタイトルになっているが、記載されている内容は文化芸術活動の定義であると思う。「文化芸術とは」という場合、オペラやダンスなどの文化芸術の対象をイメージする人もいるのかなと思った。このままでも概念的な広い意味で伝わると思うが、文化芸術のコンテンツには触れていなかったもので、コメントさせていただいた。ただし、これを全く新しくしたいというわけではない。 ◆冒頭で区が行うこととして、文化芸術活動を定義している。内容という意味では、個々の施策の方向性の中で謳っていくことになる。

(2) 現状と課題について

- ◎コロナ禍において、人々が外出しなくなり、場の提供がオンラインとなったことで、これまでと比べ認知の機会が減ってきたと思う。外を歩いている時は、様々な場所でコンサートをはじめ様々な情報を収集していた。コロナ禍において、文化団体が人々にリーチする方法に変化があれば、それも施策の中で検討すべきと思う。
- ◎吹奏楽団では、今までとはアプローチの仕方が全く変わったが、そこを逆手に取る方法も考えている。地方でも演奏会を望む声がある中で、全国に万遍なく行くのは難しく、東京で行う場合は来る人は東京近郊に限られてしまうという課題があった。そこで、先日、定期演奏会を開催した際には、そうした方たちに楽しんでいただけるように、クラウドファンディングを利用して動画を応援購入してもらった。また、クラウドファンディングを広告宣伝するためユーチューブチャンネル等を利用し始めた。もちろん、通常のホールの席も完売した。例えば、今度シビックホールがリニューアルになるが、その時に最新の設備等を充実して、出演者・出演団体が簡単に利用できるようなれば、世界に発信してけるのではないかと思う。シビックホールは、立地は良いが、サントリーホール等より低く見られてしまっていると感じるので、そうしたことも含めて、様々なところにアピールしていくことも今後は展開していければと思う。
- ◎夏休みの子ども向け教室を対面で行った。舞台上で身体を動かす事業であるため、オンラインでは難しかったので、感染対策を実施した上で行った。実地でやる体験教室は、昨年も今年も他団体ではほとんど実施していない。集めようと思っても、昨年はなかなか集まらなかったが、今年は予想以上に集まった。発表会だけはZoomでのライブ配信を行った。それも離れたところにいる方にも見ていただけたということで、好評であり、実地とオンラインと併用して行った成功事例である。
- ◎基本方針①が「いつでも、どこでも、だれでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり」としているが、これまでの計画で文化芸術分野においては、「いつでも、どこでも」というのはなかった。それが加わった理由を考えると、新型コロナウイルス感染症の蔓延を境にして、ネットによる配信が大きな要素を占めているためかと思う。クラウドファンディング等により、ライブ配信をしていくのは、1つの有効な方法であると感じている。いわゆる文化芸術におけるハイブリッドというのは考えられると思う。そうしたことから基本方針に「いつでも、どこでも」が加わってもおかしくはないと思う。
- ◎新型コロナウイルス感染症の問題は深刻で重要であると思うが、全体的にコロナに関するコメントや施策が多すぎるのではないかと思う。文化芸術はそのものを鑑賞したり、つくったりすることが重要であると思っている。コロナのこと以外にも、その収束後に考えるべきことをもう少しクローズアップしてはどうだろうか。ただし、内容としては必要なことは十分に書いているので、書き方を少し工夫するだけで良いと思う。
- ◎最近では、来場するお客さんの意識に変化があり、隣の席に人がいると嫌がる人もいる。そのため、前方は通常通り席を設けて、後方は間引いて席を設け、お客さんが選べる形にして対応したこともあった。現状では、みんながコロナのことを意識しており、自分なりに対応しようという意識が大きいと思う。表現の中でコロナの記述を

減らしても良いと思うが、意識の上では今後の鑑賞の仕方は変わってくると思う。

◆資料はこれまでの皆様のご意見を踏まえてつくったもので、皆様の思い入れも非常に大きいのだと思う。また、事務局も5分野の中で、文化芸術はコロナの影響が非常に大きいと感じており、そうした事務局の思いも入っている部分がある。コロナが明けた後に、文化芸術にとってライブの実演を観ることが最も重要であると思うので、そこを見通して書いていくことが必要であると思う。書き方の面で工夫していきたいと思う。

◎新型コロナウイルス感染症の問題は、各分野で検討しなければならない問題であり、すべての分野に共通する問題であると思う。「新型コロナウイルス感染症」という文言が次々と出てくることで、この言葉があまりに目立ちすぎているということであれば、現状と課題に⑤をつくり、新型コロナウイルス感染症関連のことをすべてそこに集約することもあり得るのかと思う。

◆新型コロナウイルス感染症関連の話を集約すると分かりやすいのであれば、その書き方にすることもあり得ると思うので、色々のご意見をいただければと思う。

◎全体的に書き方を若干変え、強調され過ぎているところを緩和すれば良いと思った。ご指摘のやり方もすっきりして良いと思うが、これからそのように整理するのは事務局が大変なのではないか。

◎コロナの文言が出るのは仕方がないと思っている。いつ収束するか分からず、この時代を反映しているものでもあり、後から見ても強調できると思う。コロナ後の反動を利用して、ライブでの鑑賞ブームにつなげていければ良いと思っている。文言だけならばあまり気にしなくても良いと思った。

◎現状と課題で挙げられている問題は、以前からあった問題である。元々あった問題をすべてコロナのせいにするような議論にはならないと思った。

(3) 施策体系の考え方について

◎(特に意見はなし)

(4) 基本方針と施策の方向性について

【基本方針①について】

◎アについて、令和元年度の調査で、過去1年間に出かけて文化芸術を鑑賞した人の割合が示されているが、これは文京区内で鑑賞した人の割合なのか。

◆これは区民に聞いているものであるが、必ずしも区内とは限らない。

◎区内で鑑賞している人が8割もいれば、相当機会が充実しているのだと思ったが、区外も含めるのであれば、区民の関心が高いということが言いたいのだと思った。

◎「いつでも、どこでも」というのは、場所や時間を問わないことを意味しているので、オンラインとの親和性が高く、有効であると思う。女性団体連絡会は文京区の男女平等センターの指定管理者であるが、施設は現在、コロナの影響で利用が制限されている。今、活動していく上で、しなくてはならないことは、オンラインを充実させることである。建物が古いとライブ配信ができない。支える側としても配信の設備をすることが重要であると思う。大ホールの改修にあたって、ライブと同様の質の高いも

のが配信できるように、設備を充実してもらいたいと考えている。また、主な事業として「文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施」とあるが、これは抜粋なのか。これに記載のない写真展等も含まれるのか。

◆既存事業の中でイメージとして1つ載せている。当然これだけではなく、文化芸術の発表に関する様々な事業を含めて、発表会、大会ということになる。

◎基本方針①の文章の最後に「文化芸術を鑑賞できる環境づくりを推進します。」とあるが、ここにはWi-Fi環境などのハード面の環境の改善を含むと考えて良いか。

◆こちらは、オンラインを使った鑑賞の事業を展開することを一義的に考えている。そのために当然ハード面の整備も必要であると考えているので、他部署と連携しながら、Wi-Fi環境の整備に努めていく。

◎これは計画であるので、長期的な視点に立ったものも必要であると思う。Wi-Fi環境も含め、オンライン化に対応できる施設・設備を整えていくと記載できないか。

◆「する」という部分で言えば、区民センターや男女平等センターを使って活動することになると思うので、ハード面の充実は必要であると思っている。鑑賞については、オンラインを入れた事業を展開することを意識している。

◎オンラインを進めていくには、それなりの施設要件が必要だと思う。そのため、アカデミー推進課の所管の範囲でできる部分については、その方向を示すことは重要であり、それをどこかで表現できれば良いと思う。

◎国の補助金の申請をすることで公演を成り立たせている団体が多い中で、文化芸術団体が配信に踏み込めない事情がある。去年から海外向けに動画を配信することで補助金が出る補助金制度がある。また、キャンセル保障という補助金がある。動画は有料コンテンツとしてライブ配信する場合、固定カメラだけではなく、複数のカメラや有料のランケーブルなどを使って撮影する必要があり、多くの費用がかかる。また、キャンセル保障は、公演を完全に中止する場合、出演しなくても、出演者にその分の出演料を払うものである。しかし、ライブ配信をしてしまうと、公演をキャンセルしたことにならず、キャンセル保障の補助金が使えなくなる。費用をかけてライブ配信をしても、採算が取れず、補助金ももらえなくなる。完全に中止した方が、損害が少なく済む。お客さんのことを思って、やろうとすると逆に金銭面で行き詰ってしまう。これが現状では解決できないので、ライブ配信等に踏み込めない文化芸術団体は多くいると思う。

◎3月にロンドンで仕事をする予定であったが海外に行けなくなったところ、ロンドンの日本大使館がホスト役となり、私達の工房と大英博物館をつないで、イギリスを中心とする世界にライブで私たちの仕事を色々と発信した。非常に大がかりな設備が必要で、多くの費用もかかった。これは国の仕事であったので、私の方では費用はかからなかったのだが、非常に大変な思いもした。「担い手」という言葉について、私は仕事で小学校から大学まで教えに行くのだが、その時には知ってもらう人の裾野を広げることが重要である。相手が興味を持っている子どもばかりではないので、とにかく裾野を広げ、その中から数名が興味を持ち、先々に色んなことを伝えてくれるのではないかと期待している。

【基本方針②について】

◎イの「市民団体等の活動に対する支援の充実」について、コロナ禍で社会教育団体の登録数はどのように推移しているのか。

◆詳細な数字は現在手元にないので、はっきりとしたことは申し上げられないが、コロナで活動できないので、廃止届が出る枚数は以前よりかなり多くなっている。

◎文化芸術活動においては、行動する人、プレイヤーをいかに守るかが最も大切であり、守ることによって継続性が保たれていくと思う。そのため、単なる場所の提供だけでなく、資金等も含めた包括的な支援を検討していくことが必要であると思う。

◆イの最後に「多角的な視点からの支援の充実を図ります。」としているが、ここについては文言が先行している面があり、実際に今後5年間で計画の中で、何ができるのか、何をしなければならないのかということは、これから固めていかなければならないと思っている。この場で何か意見があれば、参考とさせていただきたい。

◎イに「市民団体等の活動に対する支援の充実」とあり、「等」が入っている。音楽関係では、個人で活動されている方もかなりいるので、団体だけではなく個人の方に対する視点も入った方が良い。個人同士が連携を取りながら、いろんなことをしていく活動に対しては、プレイヤーだけでなく、それを支える人などにも、包括的な支援、対象を広げていくような支援を考えていくことが必要であると思う。

【基本方針③について】

◎経済格差による様々な機会の格差も出てきている中で、学校行事における文化芸術に触れる機会は大変貴重であると感じている。日本の場合、色んなところで文化芸術を見聞きする機会が少ないと思う。道からわかりやすいところに絵を飾っていただくことも、まち自体が美術館になるような取組として面白いと思う。そういったことで、子どもたちが見て、興味を持っていくことも大事になると思う。

◎毎年、財団の事業として、中学校の吹奏楽部に指導に行っている。ほぼ全校回るのが、文京区の子どもたちは勉学の比重が非常に高いと感じる。また、吹奏楽コンクールが毎年開かれているが、その強豪校と呼ばれるところの保護者と教員のつながりが非常に強固である。その中で文化芸術に親しむことができれば良いが、授業の一環としてやっているような子どももみられるため、大人のアプローチの仕方を考えた方が良いと思っている。やらされているような感じがあり、楽しむことにつながりにくい気がしている。

◎文化芸術に限らず、スポーツに関しても子どもを中学校に入れて、がっかりした部分はある。先生方の働き方改革もあるので、部活動にそれほど力を入れられないという現実もあると思う。指導者を呼ぶための予算を区の方で考えて、用意もしていただいているが、素晴らしい指導者を呼ぶには額として少なく、良い指導者を見つけることも難しい。本物に触れる機会を何らかの形で用意していただき、親に対してもアプローチしていくと、文化芸術がもう少し広がるのではないかと思う。

◎小学校と中学校で、東京フィルとシエナの方にそれぞれ出前コンサートとして、年2校ずつ回っていただいている。中学校10校、小学校20校ある中で、2校ずつでは回れない学年が出てくるため、もう少し回数を増やしたいと思う。一方で、学校の方

	<p>でもカリキュラム等の関係で、必ずしもすべての学校が希望しているわけではない。財団としても取組をしていることをご理解いただきたく、お話をさせていただいた。</p> <p>◎2校しか行けないというのは、お金の問題もあるし、学校のカリキュラム上でも、なかなかゆとりを持って入れられないということか。</p> <p>◎お金の面は区の方に予算を付けてくれるようお願いすると、それが有効なものであれば、予算を付けてくれると思う。現在、大ホール、小ホールが休館している中で、アウトリーチとして出前コンサートなどを増やしていきたいと思っていたが、難しい状況である。私たちは区からの予算で動いているため、なかなか早めに動くことができない。学校側のカリキュラムがそれよりも早く決まっていることもあるので、そういう意味でのミスマッチングもあると思う。</p> <p>【基本方針④について】</p> <p>◆「地域の資源を活かしたまちづくりの推進」について、まちづくりというのは非常に大きな概念であると思うが、このフレーズで皆さんにイメージしていただけるか伺いたい。実際にこれで何を言いたいのがわかるのかということである。</p> <p>◎私のイメージではまち全体が美術館のような、色んな資源によりまち全体をそうした環境にしていくということが1つのまちづくりのイメージと思う。</p> <p>◎すでに財団の方で色んな文化財の中で演奏をしているが、そうしたことの数を増やすということがイメージ的に直結すると思う。色んな名所でのイベントをたくさん行うことにより、見てくれる人がさすが文京区だなということで捉えてくれると思う。また、「I don't know (能)・・・ NO (能) problem!～ みんなで親しむ「能 (Noh) プロジェクト ～」」というこのネーミングが非常に良いと思う。これもイメージ戦略の1つと思う。多様な形のアプローチを増やすと良いと思う。</p> <p>◎文京区にはお寺も多く、お寺は最近文化活動の場を提供してくれているので、話をすれば、協力してくれるところはあると思う。私たちの地域では全くギャラリーがなかったのだが、コンテンポラリーギャラリー、浮世絵ギャラリー、工芸のギャラリーが立て続けにできてきた。そうすると道行く人が中を覗いていく姿が見られるようになった。そうした中で楽しんでもらうアート活動があっても良いと思う。</p> <p>◎地域の中に文化芸術が溶け込んでいく、そうした中で人々の意識が向上したり、変化したりしてまちを良くしていこうという気持ちにつながるというイメージかなと思う。学習活動にも関わることであるが、地域学という言葉がある。地域のことを学んで、新しい地域文化をみんなでつくっていこうというものである。例えば、資料にも森鷗外のことが書かれているが、文学から文京区の歴史や文化を学び、新しい文京区の文化を基あるものから現代の潮流に合わせて、つくっていくようなこともまちづくりに非常に関係してくる。ただし、それが今ここでいう文化芸術ではなく、学習活動の方につながるかもしれない。</p>
2 閉会	